

2 0 1 6 年 度

事 業 報 告 書

自 2 0 1 6 年 4 月 1 日

至 2 0 1 7 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目 次

I. 海洋センター所在市町村の概要	2
II. 法人の概況	3
1. 設立年月日	3
2. 定款に定める目的	3
3. 定款に定める事業内容	3
4. 所在地	3
5. 基本財産の額	3
6. 行政庁	3
7. 役員に関する事項	3
8. 職員に関する事項	3
III. 管理業務	4
1. 役員及び評議員	4
2. 専門委員	4
3. 会議	4
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	6
6. 事務局	6
IV. 事業の実施状況	7
【公益目的事業】	7
1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関する モデル事業	7
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備	9
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	13
4. 誰もが海に親しめる事業の推進	16
5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用	19
6. B&G全国会議の開催	23
7. 海を守る植樹教育	25
8. B&Gプランの推進に関わる調査研究等の活動	28
9. 広報活動	29
10. 情報ネットワークの強化	30
11. 寄付金等	31
12. B&Gネットワークを活用した熊本支援事業	31
【収益事業】	32
1. 土地賃貸事業	32
2016年度事業報告における附属明細書	37

I. 海洋センター所在市町村の概要

(海洋センター所在市町村の数)

2016年度内に静岡県「袋井市浅羽B&G海洋センター」(上屋付きプール)が老朽化のため廃止となった。2017年3月末日現在、海洋センター所在市町村数は218市、159町、13村で390自治体、海洋センター数は471カ所である。

(海洋センターの現状と利用状況)

2015年度から「海洋センター」をこれまでのスポーツ振興の場にとどまらず、誰もが集える「地域コミュニティ施設」へと大胆な変革を推進している。

各地の「海洋センター」では、キッズスペース、図書、カラオケなど地域が望む機能を付加し、子育て世代や高齢者など、今まで施設を利用したことのない住民が集いだしている。

現在、地方自治体が国の指導により「公共施設の健全化」を検討するなか、「海洋センター」の多機能化の推進は、地域に不可欠な施設と位置付けられるものと確信する。

このような取り組みの結果、熊本地震などの大災害が発生したにも係わらず2016年度の「海洋センター」の総利用者人数は、前年度より9万人増え、年間1,044万人となった。

(海洋センターの評価)

第9回「B&G全国サミット」は、223名の現職市・町・村長をはじめ、683名の海洋センター関係者が出席するなど、自治体と財団の連携は強化されている。

「海洋センター」活性化の指標とする「海洋センター評価」は、運営が優良な「A評価」以上の海洋センターが全体の8割を超える378カ所となり過去最高となった。

(熊本地震・東日本大震災)

2016年4月14日に発生した「熊本地震」では、県内4カ所のB&G所在自治体が大きく被災した。全国のB&G関係者から寄せられた募金により、子供たちの心のケアなどの各種事業を実施するとともに、B&G指導員の有志によるボランティア活動などを展開した。

熊本市の「海洋センター」が全壊状態のため、今後協議を行っていく。

また、東日本大震災で全壊した7カ所のB&G海洋センターのうち、岩手県山田町海洋センターの艇庫施設が復旧し、5年ぶりに活動を再開した。

II. 法人の概況

1. 設立年月日 1973年（昭和48年）3月28日

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い、2012年3月21日付で内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定を受け、2012年4月1日付で公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、わが国の青い海と緑の大地を実践の場とし、主として海洋性レクリエーション事業を軸とした青少年の健全育成、身体活動を通じた幼児から高齢者までの心身の健康づくり、水の安全教育と海事知識並びに環境保全の普及・啓発等、公益の増進を図る事業の振興に寄与し、海洋国日本の発展に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成に関する事業
- (2) 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
- (3) 水の安全教育と海事知識の普及・啓発に関する事業
- (4) 国際交流と環境保全を推進する事業
- (5) 指導者養成に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地 東京都港区虎ノ門3-4-10（虎ノ門35森ビル9F）

5. 基本財産の額（円）

取得価額	時価評価額	差異
6,560,000,000	7,663,739,800	1,103,739,800

※時価評価額については、2017年3月31日現在の有価証券の評価益を含んだ額である。

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の6. 事務局を参照

Ⅲ. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2017年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」(33頁)のとおり、理事8名（会長1名、専務理事1名、常務理事1名、理事5名）、監事2名である。
役員の変動は、理事の小池 保夫氏が8月31日付死亡退任となった。

(2) 評議員

2016年6月22日付 第11回評議員会にて評議員の選任が行われ、評議員8名（岸ユキ氏・工藤 祐直氏・小高 幹雄氏・小峯 力氏・谷川 真理氏・西嶋 泰義氏・吉田 和夫氏は再任、波多野 茂丸氏は新任）が就任した。

なお、今 義男氏、遠藤 容弘氏は同日付で退任となり、2017年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」(34頁)のとおりである。

2. 専門委員（海洋センター施設整備委員）

2017年3月31日現在における専門委員は、別表3「専門委員名簿」(35頁)のとおり6名である。

3. 会議

(1) 理事会

①第16回理事会

ア. 時 期：2016年6月8日（水）15時55分

イ. 場 所：B&G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 施設等整備準備金への繰入れに関する件

第2号議案 2015年度事業報告及び附属明細書の承認に関する件

第3号議案 2015年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）
及び附属明細書並びに財産目録の承認に関する件

第4号議案 第11回評議員会招集に関する件

②第17回理事会

ア. 時 期：2016年10月21日（金）14時00分

イ. 場 所：B&G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 2017年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第2号議案 諸規程の一部改正に関する件

第3号議案 海洋センターの廃止に関する件

③第 18 回理事会

ア. 時 期：2017 年 2 月 15 日（水）14 時 55 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2016 年度事業計画書及び収支予算書の一部変更の承認に関する件

第 2 号議案 2017 年度事業計画書及び収支予算書の承認に関する件

第 3 号議案 第 12 回評議員会招集に関する件

(2) 評議員会

①第 11 回評議員会

ア. 時 期：2016 年 6 月 22 日（水）16 時 00 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 報告事項：2015 年度事業報告の件

エ. 決議事項：

第 1 号議案 2015 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認に関する件

第 2 号議案 評議員の選任に関する件

②第 12 回評議員会

ア. 時 期：2017 年 2 月 24 日（金）14 時 55 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 報告事項：2016 年度事業計画書及び収支予算書の一部変更について
2017 年度事業計画書及び収支予算書について

(3) 専門委員会（海洋センター施設整備委員会）

①第 19 回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：2016 年 9 月 16 日（金）11 時 00 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2017 年度「地域海洋センター修繕助成」に関する件

第 2 号議案 「熊本地震」施設復旧に対する災害復旧修繕に関する件

第 3 号議案 地域海洋センターの廃止に関する件

4. 規程の制定等

(1) 一部改正した規程

- ・ B & G 海洋性レクリエーション指導員規程
- ・ B & G 海洋性レクリエーション指導員の配置に関する基準

・貸付金規程

5. 届出・登記事項

(1) 内閣府への届出

- ・事業の変更に伴う届出
- ・「2015年度事業報告等の提出」の届出
- ・「評議員の任期満了に伴う退任・新任」の変更の届出
- ・「理事の死亡に伴う退任」の届出
- ・「2017年度事業計画書等の提出」の届出

(2) 登記事項

- ・評議員の退任・重任・新任に伴う登記
- ・理事の死亡に伴う退任の登記

6. 事務局

(1) 機構

2017年3月31日現在における事務局の機構は、別表4(36頁)のとおり、3部6課である。

(2) 人員

職員は、2名(前年度契約職員の者)を採用し退職者はいなかった。また、契約職員は、3名を採用し1名が退職した。これにより、2017年3月31日現在における職員は27名、契約職員は6名となった。

IV. 事業の実施状況

【公益目的事業】

1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業

※日本財団助成事業

海洋センターをこれまでのスポーツ振興の場に止まらず、健常者・障害者・子供からお年寄りまで「誰にも親しまれ、気軽に集える」場所へとシフトさせ、地域コミュニティの拠点とするため、2年目の取組みとしてモデルとなる2町に対し支援するとともに財団職員を派遣し、財団と自治体との協働事業の構築を図った。

(1) モデル自治体へのイベント開催等の支援

ア. 時 期：通年

イ. 場 所：北海道積丹町、熊本県湯前町

ウ. 支援費用：積丹町 500万円

湯前町 3,983,144円（上限500万円）

エ. 成 果：モデルの2町において、2015年度に改修した設備や購入した備品等を活用してスポーツ以外の事業を実施することにより、新たな利用が生まれている。

①積丹町

放課後の子どもの居場所や音楽教室などの取り組み、図書イベントなど多岐にわたる事業を実施した。海洋センターに人が集うことにより、「子育て」「合唱」「漁師」等、年代に関わらず、同じ目的を持つ住民が結束した「サークル」が複数発足。海洋センターを拠点として住民自らが活動を行うようになった。

これまでの「スポーツをする人しか利用できない施設」というイメージが変わり、待ち合わせ場所にも利用されるなど気軽に足を運んでもらえる施設へと変化している。

②湯前町

ボランティア活動を希望する住民により、運動教室の定期開催やイベント時にコーヒーをサービスするなどの活動が生まれている。

子育て世代が集う赤ちゃんサークルでは子どもの見守りボランティアとして高齢者が協力するなど、多世代にわたる住民が参加して活動するようになった。

健康づくり事業ではプールを活用した取り組みが充実し、近隣市町村との交流も生まれている。また、高齢者対象事業での「サポーター」の増加や地区単位で高齢者が集まり自分たちで運動に取り組む活動など、住民自らが活動を行うようになった。

(2) モデル事業の活動周知

ア. 時 期：通年

イ. 内 容：

- ① SNS（ブログ・Facebook）による情報発信 10件
- ② 「B&G全国会議」等での活動事例周知
 - ・第13回「B&G全国教育長会議」：44道府県から現職教育長 58人
 - ・第9回「B&G全国サミット」：参加者830人（うち現職首長223人）
 - ・B&G指導員研修会：参加者226人

(3) 大学教授等との連携協力（検証・アドバイス）

ア. 時 期：通年

イ. 場 所：北海道積丹町、熊本県湯前町

ウ. 内 容：事業実施状況の確認、次年度事業計画の企画立案、利用者からの聞き取り調査、利用者満足度調査等の実施

◆海洋センター利用者満足度調査 概要

依頼先	積丹町：札幌学院大学 経営学部 河西 邦人 教授 湯前町：熊本大学 教育学部 中川 保敬 教授
調査目的	「海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」を展開する中で、利用者から昨年度の取組みについての意見を収集するとともに、利用者への満足度を調査することにより、利用状況の変化と満足度（要望）の現状を把握し、今後の事業展開に反映させる。
対象者	北海道積丹町海洋センター利用者 91人 熊本県湯前町海洋センター利用者 141人
実施方法	2016年6月から7月にかけて海洋センター来場者に対し、海洋センターに常勤する指導員がアンケート用紙を配布、回収する方法を採った。
結果概要	【積丹町】 利用者の中心は、海洋センターが所在する「美国地区」に集中している。施設の利用状況は、スポーツ、トレーニング以外の利用もあることから、多様なニーズが伺え、海洋センターができる地域貢献は多岐にわたると考えられる。 性別では、男性は運動の利用が多く、女性は文化活動等の利用が多い傾向にある。町内の他施設に無い機能や特性は強い来館動機になり得る。 海洋センターのハード面に対し改善を望む声も上がっているが、ソフト面について改善を望む声は圧倒的に少ない。 海洋センターで新しい友人ができた利用者は約3割であった。その友人と海洋センターを利用することで満足度が高まることが推測される。 【湯前町】 海洋センターの取組み内容から比較的、スポーツ・トレーニング・健康チェ

	<p>ックの利用が多い。利用時間が長い人ほど満足度が高い傾向にあった。</p> <p>ソフト面は「職員の接遇」が男女とも高評価を得ているが、ハード面は清潔感を求める声が主に女性から上がっている。(2016年度に改修工事を実施し、トイレ・更衣室を改修した)</p> <p>新たな取組みにより「初めて利用した」「1年以上利用しなかったが久しぶりに利用した」方が半数を占め、新規利用者の獲得に繋がっていることが伺える。1年前と比較して「友人ができた」利用者は約2割であった。</p>
--	--

2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備 ※日本財団助成事業

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則A評価以上で施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化等）を目的とする修繕と、自然災害（台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し助成金の交付を行った。

また、ポートルースの収益金が広く有効に活用されていることを、当該市町村をはじめ地域住民に周知するため、修繕助成決定書授与式を実施するとともに、リニューアルオープン式典へ出席し、自治体執行部はじめ、議会関係者、式典に出席した多くの地域住民に更なる利用を促した。

(1) 修繕助成金の交付

①通常修繕

通常修繕として助成を決定した36海洋センター37施設に対し、534,000,000円を助成した。

◆通常修繕交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	主な修繕内容	助成金額
1	北海道	せたな町	艇庫	管理棟サッシ改修工事	3,800,000
2	北海道	新篠津村	体育館	屋根・外壁全面改修、多目的トイレ設置、アリーナ照明LED化	30,000,000
3	北海道	名寄市風連	プール	上屋鉄骨全面塗装、プール缶体全面塗装、上屋シート全面張替	18,000,000
4	北海道	大空町女満別	体育館	屋根・外壁全面改修	15,300,000
5	北海道	沼田町	プール	上屋鉄骨全面塗装、給排水設備改修、トイレ洋式化	13,700,000
6	北海道	苫前町	プール	管理棟屋根全面改修、上屋鉄骨全面塗装、管理棟等照明LED化	22,400,000
7	青森県	六戸町	プール	プールサイド全面改修、管理棟屋根・外壁全面塗装	7,300,000
8	岩手県	久慈市山形	プール	上屋シート全面張替	7,300,000

9	岩手県	一関市東山	プール	プールサイド全面改修、照明器具取替、トイレ改修	7,800,000
10	岩手県	奥州市前沢	体育館	屋根全面改修	14,400,000
11	秋田県	由利本荘市由利	体育館	屋根・外壁全面改修	11,900,000
12	茨城県	行方市玉造	プール	上屋シート全面張替	5,000,000
13	千葉県	香取市栗源	プール	上屋鉄骨全面塗装、上屋シート一部張替	6,100,000
14			体育館	外壁全面塗装	7,400,000
15	新潟県	燕市	プール	上屋シート張替	4,600,000
16	福井県	大野市	体育館	外壁全面塗装	12,900,000
17	岐阜県	可児市	プール	上屋鉄骨全面改修、プール缶体防水工事、多目的トイレ設置	27,000,000
18	岐阜県	中津川市付知	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面塗装	9,200,000
19	長野県	飯島町	プール	プールサイド全面改修、ろ過機取替、上屋鉄骨全面塗装、ボイラー取替	25,000,000
20	長野県	飯綱町三水	プール	プール缶体取替、ろ過機・温水ボイラー取替、プールサイド全面改修、スロープ設置	26,700,000
21	三重県	桑名市長島	体育館	天井フレーム落下防止工事、トイレ洋式化	4,700,000
22	三重県	伊勢市御薗	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨・プール缶体・プールサイド塗装	14,300,000
23	山梨県	山梨市牧丘	体育館	屋根全面改修、床改修（アリーナ・トレーニングルーム）	17,900,000
24	山梨県	甲斐市双葉	プール	プール缶体全面塗装、管理棟屋根改修	9,000,000
25	滋賀県	米原市山東	プール	上屋シート全面張替、プール缶体全面・管理棟内外壁塗装、スロープ新設工事	18,100,000
26	滋賀県	多賀町	プール	上屋シート張替、給湯ボイラー取替	5,600,000
27	兵庫県	養父市おおや	体育館	照明LED化、トイレ・シャワー改修	5,000,000
28	鳥取県	伯耆町岸本	体育館	外壁塗装、太陽光発電システム設置	27,300,000
29	岡山県	奈義町	体育館	観覧ギャラリー設置	18,200,000
30	広島県	東広島市安芸津	プール	プール缶体・上屋鉄骨全面塗装、トイレ・シャワー改修、プール照明器具LED化	22,700,000
31	愛媛県	松山市中島	プール	ろ過機取替工事	4,000,000
32	熊本県	長洲町	体育館	照明LED化、段差解消工事、アリーナ床改修	9,800,000
33	熊本県	湯前町	体育館	照明LED化、アリーナ天井板張替、アリーナ床改修	13,200,000
34	鹿児島県	長島町	体育館	全面バリアフリー化、第2玄関新設、多目的トイレの設置、照明LED化	25,600,000

35	鹿児島県	日置市東市来	プール	缶体全面塗装、給排水設備改修	10,000,000
36	鹿児島県	天城町	体育館	屋根・内外壁全面改修、床改修	30,000,000
37	福岡県	大任町	プール	上屋付多目的運動場への用途変更	22,800,000
36 センター37 施設					534,000,000 円

②災害復旧修繕

2016 年台風 16 号および鳥取地震で被災した 3 海洋センター3 施設に対し、8,000,000 円を助成した。

◆災害復旧修繕交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	助成金額
1	鹿児島県	南大隅町佐多	プール	3,400,000
2	鳥取県	北栄町北条	体育館	1,300,000
3	鳥取県	倉吉市関金	艇庫	3,300,000
3 センター3 施設				8,000,000 円

③熊本地震災害復旧修繕

2016 年熊本地震で被災した 3 海洋センター3 施設に対し、19,100,000 円を助成した。

◆熊本地震災害復旧修繕交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	助成金額
1	熊本県	菊池市泗水	体育館	17,000,000
2	大分県	由布市湯布院	体育館	1,300,000
3	大分県	由布市挾間	プール	800,000
3 センター3 施設				19,100,000 円

(2) 舟艇器材の配備

①舟艇器材追加・再配備

申請があった 17 海洋センター・20 クラブの活動状況等審査を行った結果、12 海洋センター・10 海洋クラブに対し、舟艇器材等を配備した。

ア. 対象：12 海洋センター・10 海洋クラブ

イ. 配備金額：8,626,134 円

②新規海洋クラブ登録及び舟艇器材配備

新規海洋クラブとして 5 クラブの登録を行った。そのうち、3 海洋クラブに対し、救助艇等の舟艇器材 4,869,469 円の配備を行った。

- ア. 新規クラブ：B & G トトロ海洋クラブ（宮崎県）・舟艇配備
B & G 光スポーツ交流村海洋クラブ（山口県）・舟艇配備
B & G 杉並海洋クラブ（東京都）・舟艇配備
B & G 亀山市関海洋クラブ（三重県）
B & G 柳川市やまと海洋クラブ（福岡県）
- イ. 配備金額：4,869,469 円

（3）東日本大震災舟艇復旧修繕

2011 年の「東日本大震災」で壊滅的な被害を受けた海洋センターに対し、活動を再開するために必要な舟艇器材を配備した。

- ア. 対 象：岩手県山田町（艇庫）
- イ. 配備内容：ヨット 2 艇、カヌー 8 艇、ライフジャケット 50 着、バナナボート 1 艇、船台 2 台 ほか
- ウ. 配備金額：2,498,697 円

（4）修繕確認等

①決定書授与式

ボートレースの収益金の有効活用について、広く住民に周知することを目的に「決定書授与式」を開催した

- ア. 時 期：通年
- イ. 対 象：26 自治体（修繕助成金額 1,000 万円以上）

②リニューアルオープン式典

工事の完了確認と自治体執行部や議会関係者、地域住民へ利用促進を P R することを目的に「リニューアルオープン式典」に出席した。

- ア. 時 期：通年
- イ. 対 象：14 自治体

③海洋センター・海洋クラブの現状調査

海洋センター・海洋クラブの更なる活性化を目的に現状調査を行った。

- ア. 時 期：通年
- イ. 対 象：52 海洋センター・海洋クラブ
- ウ. 内 容：市町村長や教育長等との面談、海洋センターの管理・運営状況・問題点等の確認

④海洋センター・海洋クラブの評価

海洋センター並びに海洋クラブの更なる利用促進を図るため、活動状況や運営状況等に基づく評価を行い公表した。

◆評価別 海洋センター数

特A	A	B	C	D	E
242	118	93	12	0	2

◆評価別 海洋クラブ数

特A	A	B	C	D	E
37	43	97	35	5	39

⑤優良海洋センターの表彰

海洋センター評価に基づき、A評価以上の優良海洋センターを「第9回B&G全国サミット」で表彰した。

ア. 時 期：2017年1月24日（火）

イ. 場 所：笹川記念会館

ウ. 対 象：特A評価242、A評価118 計360センター

⑥海洋センター運営改善に係る協議

海洋センター中間評価にてC評価となった海洋センターに対し、自治体執行部等と財団役員による海洋センターの運営や存続等に関する協議・意見交換を行った。

ア. 時 期：2017年1月

イ. 対 象：宮崎県日南市（日南市南郷）

ウ. 結 果：自治体から運営改善に向けた方針が提出された。

3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進

海洋センターをこれまでの「スポーツ振興・健康増進の拠点」から、気軽に集える「活力ある地域づくりの拠点」へと変革させるとともに、海洋クラブについても民間の活力を活用した地域との連携活動を促し、地域コミュニティの再生及び活性化を図るための事業を展開した。

(1) 既存海洋センターへのコミュニティ機能付加改修支援 ※日本財団助成事業

海洋センター施設を活用した「コミュニティー・オープンスペース」のアイデアを広く全国から募集し、施設の増改築や一部改修、備品等の購入を10自治体に支援した。

ア. 時 期：通年

イ. 応募総数：23市町村

ウ. 対 象：10カ所

エ. 支援金額：9,814,300円（上限100万円／1カ所）

◆コミュニティ機能付加改修支援 一覧

No.	道府県名	センター名	改修施設・主な修繕内容	金額
1	北海道	古平町	《プール・ロビー》 水中レクリエーション器材及び血圧計の設置により、多世代にわたる利用促進を図った。	991,980円
2	北海道	鷹栖町	《屋外》 歩くスキー一式の購入による、冬場における運動不足解消や体力づくりを行うとともに、写真撮影会等と組み合わせて実施することにより新たなコミュニティ形成に繋がった。	1,000,000円
3	石川県	志賀町富来	《スタジオ》 幼児から高齢者を対象とした運動器具の購入により、新たな利用者の獲得に繋がり、多世代のコミュニティ形成に繋がった。	840,240円
4	三重県	熊野市紀和	《プール》 温泉プールの特性を活かして、プールサイドに浴槽を設置することで、運動後の暖を取りながらのコミュニティ形成に繋がった。また、近隣医療施設と連携し、水中運動を推奨いただくことで新たな利用者を獲得した。	1,000,000円
5	京都府	京丹波町和知	《艇庫》 艇庫前にボルダリングと休憩スペースを設置したことにより、カヌー以外の利用者が増加した。また近隣の道の駅利用者を誘致し、新たな利用者を獲得した。	1,000,000円
6	兵庫県	篠山市	《ロビー》 ロビーに子育て世代が休憩できるスペースに改装。また、カフェスペースを設置したことから、子育て世代の交流の場となった。	1,000,000円
7	島根県	浜田市三隅	《ミーティングルーム》 幅広い年代層が利用しやすいよう、ミーティングルームを改修したことにより、スポーツから文化活動まで多岐にわたる教室を開催することにより、新たなコミュニティ形成に繋がった。	993,600円
8	広島県	尾道市瀬戸田	《ロビー》 ロビーを拡張、改修することにより、休憩スペースを充実させたことにより、地元の高校生、	990,000円

			保育園児の交流の場、しまなみ海道のサイクリストの休憩所となる等、多世代交流の場となった。	
9	山口県	周防大島町	《アリーナ》 防球ネット移設、防護壁用として可搬式畳の購入により、人気の高いフットサルの利用促進に繋がった。また、可搬式畳については、避難所訓練での活用、ロビーでの休憩場所としても活用し、新たな利用促進に繋がった。	998,480 円
10	福岡県	大任町	《ミーティングルーム》 鏡の設置、照明等の設置等、スタジオ機能を付加したことで、隣接する文化ホールと連動した活動に繋がった。また、ダンス等の新しいサークルの利用促進や保育園の雨天時の活動場所として有効活用されるようになった。	1,000,000 円

(2) 避難所開設訓練の実施 ※日本財団助成事業

「避難所」として指定されている海洋センターを対象に、有事の際の初動体制を確認する避難所開設訓練を5ブロック5自治体にて実施。近隣海洋センター担当者ほか、多くの地元住民等が参加した。

◆実施一覧

No.	道府県名	センター名	実施日	住民等	センター担当等
1	鹿児島県	鹿屋市串良	8月26日～27日	106人	13人
2	北海道	古平町	9月23日～24日	73人	13人
3	福井県	大野市	10月15日～16日	36人	21人
4	福岡県	築上町築城	11月11日～12日	197人	10人
5	兵庫県	篠山市	11月26日～27日	186人	11人
			合計	598人	68人

(3) B&Gネットワークを活用した地域情報の共有と発信 ※日本財団助成事業

海洋センター・クラブ事業等、地域の活動を効果的に周知するため、全国10エリアの地域情報ページ「まちレポ エリア版」をフェイスブック上に立ち上げ、海洋センター・クラブの担当者等が、地域の様々な情報を直接発信できる仕組みづくりを行った。

また、これらの地域情報からニュース性の高い話題を取りあげて、財団公式サイトで紹介する特集コンテンツ「まちレポ 全国版」を開設し、情報発信を行った。

◆まちレポ情報発信数

媒体名	投稿数	アクセス数
フェイスブック「まちレポ エリア版」	930件	105,697件
公式サイト「まちレポ 全国版」	38件	12,465件
合 計	968件	118,162件

(4)「B&G全国ジュニア水泳競技大会」の実施

B&G海洋センター・海洋クラブで日頃から水泳を練習している青少年と障害者を対象に、成果発表する場を提供すると共に、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害の有無に関わらず分け隔てない参加が可能な競技大会を実施した。

ア. 時 期：2016年8月20日（土）

イ. 場 所：東京辰巳国際水泳場

ウ. 参加者：651人（内障害者3人）

※指導者・保護者等を含む総入場者数 約1,600人

エ. 参加チーム：全国26都道府県74チーム

(5)誰もが参加できるレクリエーション大会「B&Gチャレンジ」の実施

海洋センターをこれまでのスポーツ振興の場にとどまらず、子どもからお年寄り、障害者など「誰からも親しまれ、気軽に集え楽しめる」場所へと変化させることを目的に、誰もが一緒になって楽しく参加することができるレクリエーション大会を実施した。

ア. 時 期：2016年4月～2017年2月

イ. 場 所：122 海洋センター・海洋クラブ

ウ. 参加者：5,681人

(6)「B&G障害者と健常者のヨット大会」の実施

障害者と健常者がともに練習に励み競い合う環境をつくることで、お互いの理解促進を図ることを目的に、障害の有無にかかわらず誰もが参加できる新たな形のヨット大会を実施した。

ア. 時 期：2016年7月17日（日）～18日（祝）

イ. 場 所：北浜ヨットハーバー（大分県別府市）

ウ. 参加者：89人（内障害者4人）

4. 誰もが海に親しめる事業の推進

「海の日」制定の意義など、海洋に関する国民の理解と関心を深めるため、海洋性レクリエーション体験や、海洋産業体験、海や水辺の安全学習など、誰もが海に親しめる事業の推進を行った。

(1) 家庭・学校・地域への「海の日」と「海の安全」教育を推進するための「全国一斉事業」の開催 ※日本財団助成事業

①おやじの会を対象とした研修会の開催

広く子供たちに「海洋性レクリエーションの楽しさと水辺の安全学習」を提供することを目的に、東京都内のおやじの会やPTA等を対象とした「水辺の安全教室研修会」を開催した。

ア. 時 期：2016年6月19日（日）・26日（日）

イ. 場 所：船の科学館プール、日本体育大学世田谷キャンパス温水プール

ウ. 参加者：21人

②おやじの会が実施する教室への協力

おやじの会等が開催した「水辺の安全教室」の運営サポートを行った。

ア. 時 期：2016年7月16日（土）、8月28日（日）、9月10日（土）、
10月15日（土）

イ. 場 所：船の科学館プール、杉並区内小学校プール

ウ. 参加者：95人

③教員を対象とした研修会の開催

東京都内小学校や大学等において教員等を対象に、水辺の安全教育に係る座学・実技研修を実施した。

ア. 時 期：2016年6月～8月

イ. 場 所：都内小学校18校、台東区教育委員会主催教員研修会、大学等3
ヵ所

ウ. 参加者：296人

④学校と連携した教室の開催 ※日本財団助成事業

東京都内および全国のB&G海洋センター所在自治体の小学校体育授業等において、「海の日」や海に関する学習、着衣泳や落水時の対処法体験等を行う教室を開催した。

ア. 時 期：2016年5月～3月

イ. 場 所：都内小学校・海洋センター所在自治体小学校プール等

ウ. 参加者：都内小学校22校（8区）4,459人

海洋センター所在自治体小学校167校（31道府県65市町村）
11,447人

⑤臨海学校における「海の日」と「海の安全」を学ぶ教室の開催

海洋性レクリエーションの楽しさを広めるとともに、水辺の安全について学んでもらうことを目的に、東京都世田谷区桜小学校が実施するサマースクールに

において、水辺の安全教室や海洋性レクリエーション体験の協力を行った。

ア. 時 期：2016年7月21日（木）～7月23日（土） 2泊3日

イ. 場 所：鯨波海岸（新潟県柏崎市）

ウ. 参加者：児童71人（4～6年生）、教諭・外部指導員等20人

⑥「ギネス登録を目指す全国一斉事業」の開催

全国の海洋センター所在自治体において、海への関心が薄い住民を巻き込み、海に関する学習を行うとともに、落水時の対処法の一つとして「1分間のペットボトル浮遊体験」を全国一斉同日同時刻に実施し、その人数についてギネスワールドレコーズに記録を申請した。

ア. 時 期：2016年7月24日（日） 14:00から1分間実施

イ. 場 所：32道府県64市町村の海洋センター等

ウ. 参加者：1,518人

エ. 結 果：参加者のうち、要件を満たした306人をギネスワールドレコーズに申請した結果、188人が「同日同時刻1分間のペットボトル浮き」に成功したことが認められたが、世界新記録登録要件である250人を達成することができず、ギネス登録には至らなかった。

(2) 東京湾海洋体験アカデミーの開催 ※子どもゆめ基金助成事業

参加者の海への興味・関心を高め、生きる力を育み、将来的に海の仕事や活動に携わる人材を育てることを主な目的とし、小中学生を対象に「実体験を伴う多角的な海洋学習」を実施した。

①東京湾海洋体験アカデミー2016の開催

ア. 時 期：A行程 2016年7月26日（火）～7月30日（土） 4泊5日

B行程 2016年8月1日（月）～8月5日（金） 4泊5日

イ. 場 所：神奈川県及び東京都

ウ. 参加者：76人（小学5年生～中学2年生）

エ. 後 援：国土交通省、東京都、横浜市、海洋都市横浜うみ協議会

オ. 内 容：「海の仕事」に係る体験学習・講義・施設見学、海洋性レクリエーション体験、発表会 等

②東京湾海洋体験アカデミー2017 春期特別講座の開催

ア. 時 期：2017年3月28日（火）～3月30日（木） 2泊3日

イ. 場 所：東京都

ウ. 参加者：26人（小学5年生～中学2年生）

エ. 内 容：「海の仕事」に係る体験学習・講義、明治丸見学、ワークショップ、ライフセービングサポーター講習会、発表会 等

5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用

海洋センター・海洋クラブにおいて、海洋性レクリエーションおよび水泳の指導や施設の管理・運営等に携わり、青少年の健全育成をはじめとする地域住民の健康づくりの推進ならびに、地域コミュニティの活性化を担う指導員等を養成した。

(1) 海洋性レクリエーション指導員の養成

①アドバンスト・インストラクター養成研修 ※日本財団助成事業

主として、海洋性レクリエーション活動の実技指導に携わり、海事知識および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。

これまでの養成者総数は2,228人。

ア. 時期：2016年6月2日（木）～7月6日（水）35日間

イ. 場所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）

ウ. 対象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された者

エ. 参加者：44人（財団職員3人含む）

オ. 内容：海洋性レクリエーション活動に係わる総合的な知識・技能および安全管理を中心とした研修。

（B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、救助艇の操船、水泳実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法 等）

②アクア・インストラクター養成研修 ※日本財団助成事業

主として、プール活動の実技に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導者を養成した。これまでの養成者総数は1,528人。

ア. 時期：2016年6月2日（木）～6月24日（金）23日間

イ. 場所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）

ウ. 対象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された者

エ. 参加者：40人

オ. 内容：海洋性レクリエーション活動の基礎となる水泳の知識・技能および安全管理を中心とした研修。

（B&G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法 等）

③大学等と連携した人材育成

財団指導者資格取得による財団事業や海洋性レクリエーション体験会等で指導補助をする人材を育成するため、大学生を対象としたリーダー研修会やインターンシップの受入れ、海レク体験会等を4大学において次のとおり実施した。

a. 大正大学

2015年4月に締結した「大正大学とのフィールドワーク実習に関する協定」に基づき、フィールドワーク実習とインターンシップ実習を行った。

・フィールドワーク実習

ア. 時期：2016年7月11日（月）～7月31日（日）うち6日間

イ. 場所：大正大学東京キャンパス、宮城県南三陸町研修センター

ウ. 参加者：人間学部 人間環境学科 1年生 21人

エ. 内容：集団行動法、CPR・AED講習、水辺の安全教育、ロープワーク、海洋性レクリエーション等 合計25時間

オ. 資格：B&Gリーダー資格を付与

・インターンシップ実習

ア. 時期：2016年5月16日（月）～8月31日（水）うち13日間

イ. 場所：B&G財団事務所、都内小学校、神奈川県葉山町一色海岸、東京辰巳国際水泳場

ウ. 参加者：人間学部 人間環境学科 3年生 2人

エ. 内容：財団事業に関する実践実習として、「水辺の安全教室」や「B&G東京湾海洋体験アカデミー」での指導と「B&G全国ジュニア水泳競技大会」の運営

b. 東京学芸大学

大学からの依頼により、学生自らが選択して参加し、思考力・発信力を高めることを目的としたアクティブラーニング型講座「学芸カフェテリア講座」において「水辺の安全教室」の説明と実習を行った。

ア. 時期：2016年6月1日（水）、22日（水）、29日（水）

イ. 場所：東京学芸大学 小金井キャンパス

ウ. 参加者：1～4年生 延41人

c. 武蔵丘短期大学

海洋センターが所在する埼玉県吉見町に設立されている武蔵丘短期大学からの依頼により、学生を対象とした水辺の安全教育を実施した。

ア. 時期：2016年7月5日（火）

イ. 場所：武蔵丘短期大学 吉見キャンパス

ウ. 参加者：1～2年生 56人

d. 群馬大学

大学からの依頼により「水系スポーツの安全と基礎」授業への協力として「水辺の安全教室」の説明と実習を行った。

ア. 時期：2016年8月10日（水）

イ. 場 所：群馬大学 荒牧キャンパス

ウ. 参加者：2年生 43人

④ B & G 指導員研修会

海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図るとともに指導員のネットワークづくりを推進した。

ア. 時 期：2017年1月26日（木）～27日（金）

イ. 場 所：日本財団ビル

ウ. 参加者：海洋センター・海洋クラブ 指導者等 226人
(193 海洋センター・3 海洋クラブ)

エ. 内 容：著名人、有識者等による講演・講義

(2) 指導者会の活動促進

全国指導者会役員およびブロック責任者との連携を図り、海洋センターの活動のサポートを行った。また、指導員の指導知識・技術向上を目的にブロック単位で行う指導員研修会に対し事業助成を行うとともに、正副会長会議では、次年度の方針と計画、予算策定のほか、各ブロックから10カ所の優良地域指導者会を選考して表彰した。

① B & G 指導員ブロック別研修会の開催

◆実施一覧

ブロック名	実施日	参加者	ブロック名	実施日	参加者
北海道	9月28～29日	20人	近畿	10月26～27日	27人
東北	4月22日	52人	中国	11月17～18日	66人
関東	9月4日	40人	四国	5月28日	45人
北陸	9月11～12日	20人	北九州	2月3日	25人
中部	11月11日	22人	南九州	3月17日	25人
	3月13日	16人			

② B & G 全国指導者会「正副会長会議」の開催

B & G 全国指導者会の「正副会長会議」を3回開催し、会の活動方針や総会での伝達内容、次年度の活動計画・予算、指導者会設置促進などについて、意見交換を行った。

	開催日・開催場所	議題・審議事項等
第1回	8月8日 (B & G 財団会議室)	・「水辺の安全教室」の現状について ・ブロック別指導員研修会の確認 ・「全国指導者会会長賞」の規程改正について ・全国指導者会の情報伝達強化の確認 ・熊本地震災害ボランティアの派遣について

第 2 回	12月19日～20日 (B & G財団会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度事業予算執行状況確認 ・「水辺の安全教室」実施に向けた戦略 ・2017年度ブロック別指導員研修会について ・熊本地震災害ボランティア派遣状況について報告 ・「全国指導者会会長賞」の選考 ・2017年度事業の計画
第 3 回	2月6日～7日 (B & G財団会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度事業報告と決算の確認について ・2017年度事業計画の策定について ・2017年度年間スケジュール確認 ・全国指導者会の今後の活動方針について

③B & G全国指導者会「ブロック責任者会議」の開催

B & G全国指導者会の正副会長と全国10ブロックの責任者が出席し、事業計画・予算、活動方針の確認と事業具現化に向けた対策を講じた。

ア. 時 期：2016年8月9日（火）～10日（水）

イ. 場 所：B & G財団会議室

ウ. 参加者：全国指導者会 正副会長4人、ブロック責任者 10人

エ. 内容：

- ・平成27年度事業報告決算および平成28年度事業計画予算の承認
- ・3ヵ年計画および予算の確認
- ・優良指導者会の推薦方法
- ・平成28年度の基本的な事業内容
- ・水辺の安全教室の開催促進に向けた方策
- ・指導員研修会の内容等確認
- ・熊本地震災害ボランティアへの派遣協力

④指導者会の活性化支援

優れた活動を行っている地域指導者会10ヵ所に対し、全国指導者会「会長賞」の交付を行った。

◆会長賞交付一覧

No.	ブロック名	指導者会名
1	北海道	B & G瀬棚海洋クラブ指導者会
2	東 北	洋野町種市B & G海洋センター指導者会
3	関 東	いすみ市海洋性レクリエーション指導者会
4	北 陸	七尾市B & G海洋センター指導者会
5	中 部	掛川市B & G指導者会
6	近 畿	堺市美原B & G海洋センター指導者会

7	中 国	坂町B & G海洋センター指導者会
8	四 国	小豆島内海B & G海洋センター指導者会
9	北九州	柳川市B & G指導者会
10	南九州	南さつま市坊津B & G海洋センター指導者会

6. B & G全国会議の開催 ※日本財団助成事業

海洋センター所在市町村の首長・教育長をはじめ、海洋センター・海洋クラブ関係者を対象に、財団事業の周知、関係者との意見交換等を目的とした各種会議を開催し、人的ネットワークの強化を図った。

(1) 第9回「B & G全国サミット」

「変化する海洋センター！！～地域のオリジナリティを生かして～」をテーマに、日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演をはじめ、海洋センターを地域コミュニティの拠点として活用している先行事例の紹介等を行った。

ア. 時 期：2017年1月24日（火）

イ. 場 所：笹川記念会館

ウ. 対 象：海洋センター所在市町村長・教育長 等

エ. 出席者：830人

オ. 主な内容：

- ・特別基調講演「『トランプ大統領就任式』に参加して」
- ・第13回「B & G全国教育長会議」の報告
- ・B & G財団の取り組みについて
- ・変化する海洋センターの取組み事例の紹介
- ・熊本地震への支援と復興状況について
- ・B & G全国サミット「共同宣言」
- ・2016 B & G PR大賞表彰
- ・優良海洋センター表彰

◆ B & G全国サミット出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
海洋センター関係 369市町村 683人 (対象：390市町村)	首長	223人
	副首長	42人
	教育長	200人
	代理等	218人
来 賓	財団理事・評議員・関連団体	73人
報 道	報道関係	74人
合 計		830人

(2) 第13回「B&G全国教育長会議」

「インクルーシブな地域社会を目指して～障害者差別解消法の推進～」をテーマに、筑波大学 人間系障害科学域 教授の柘植雅義 氏による基調講演「インクルーシブな教育と社会を目指して～障害者差別解消法の推進～」をはじめ、3人の教育長による事例発表などを行った。

ア. 時 期：2016年11月8日（火）～9日（水）

イ. 場 所：日本財団ビル

ウ. 対 象：海洋センター道府県連絡協議会から推薦された教育長とブロック連
協幹事自治体の教育長、その他出席を希望する教育長

エ. 出席者：98人

オ. 主な内容：

- ・「B&G全国教育長会議」会長の選任について
- ・基調講演「インクルーシブな教育と社会を目指して～障害者差別解消法の推進～」
- ・各自治体からの事例発表
- ・日本財団パラリンピックサポートセンターの取り組みについて
- ・文部科学省の取り組みについて
- ・B&G全国教育長会議「提言」

◆ B&G全国教育長会議出席者内訳

区分	役職等	出席者数
海洋センター関係 78人	教育長	58人
	首長部局責任者	1人
	代理	6人
	随行	13人
来 賓	財団理事・評議員・関係団体	7人
報 道	報道関係	13人
合 計		98人

(3) ブロック連絡協議会総会

ブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国9ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当者が出席し、財団事業の説明ほか海洋センター表彰等を行った。

なお、南九州ブロック総会については、熊本地震の影響で中止となった。

ア. 時 期：2016年4月19日（火）～6月1日（水）（各1日）

イ. 場 所：全国9ブロックの幹事市町村等 9ヵ所

ウ. 出席者：740人（409海洋センター）

◆ブロック連絡協議会総会出席者内訳

区分	役職等	出席者数
自治体関係	首長	64人
	副首長	28人
	教育長	64人
	海洋センター担当者 等	584人
	合計	740人

7. 海を守る植樹教育 ※日本財団助成事業

水や生命の循環の観点から、海の環境を守る森の育成および防災林の役割とその意義を学ぶ 自然体験・環境教育として、官協方式による育苗と植樹を、市町村と地域住民ボランティアの協力により行った。

(1) 植樹リーダーの養成

①植樹リーダー研修会の開催

植樹事業実施の海洋センター・海洋クラブ指導者を対象に、地域で育苗・植樹事業を推進する「B & G植樹リーダー」の養成研修を実施した。

ア. 時 期：2016年4月25日（月）～27日（水）

イ. 場 所：社会福祉法人進和学園「しんわルネッサンス」及び周辺施設（神奈川県平塚市）

ウ. 参加者：海洋センター及び海洋クラブ指導者等 20人

エ. 内 容：「官協方式」植樹の基本理念、育苗・植樹ノウハウに関する座学講習、屋外研修、実習、事例発表等

②植樹リーダーレベルアップ研修の実施

B & G植樹リーダーを対象に、実際に植樹祭の準備と運営を体験しながら、植樹祭開催ノウハウ等を学ぶレベルアップ研修を実施した。

◆実施一覧

No.	実施期間	実施場所	派遣者数
1	8月26日（金）～28日（日）	北海道 遠別町	3人
2	10月17日（月）～19日（水）	長野県上松町	2人
3	11月13日（日）～15日（火）	岐阜県中津川市	3人
4	11月25日（金）～27日（日）	鹿児島県天城町	1人
合計			9人

(2) 育苗の支援

育苗を実施する海洋センター・海洋クラブ 15 ヶ所に対し、事業経費の補助（上限：10 万円、総額：1,401,564 円）、育苗に関する指導・助言を行った。

学校や地域団体と連携して、子供を主体とする参加者に、森と海の関わり、地域の自然、生き物の大切さなどを学ぶ自然体験・環境教育となった。

◆育苗支援センター・クラブ一覧

No.	道府県名	センター・クラブ名	実施日	参加者数	運営員数
1	北海道	新篠津村海洋センター	5月30日ほか	173人	28人
2	福島県	塙町海洋センター	7月16日ほか	78人	23人
3	埼玉県	幸手市海洋センター	10月3日ほか	76人	7人
4	埼玉県	嵐山町海洋センター	11月30日ほか	25人	8人
5	長野県	上松町海洋センター	10月11日	29人	1人
6	長野県	飯綱町三水海洋センター	10月11日ほか	76人	17人
7	岐阜県	可児市海洋センター	10月14日ほか	45人	6人
8	岐阜県	恵那市山岡海洋センター	7月16日	40人	3人
9	三重県	伊勢市御園海洋センター	7月5日ほか	36人	31人
10	島根県	江津市桜江海洋センター	10月22日ほか	33人	4人
11	山口県	宇部海洋クラブ	12月7日ほか	16人	5人
12	長崎県	平戸市生月海洋センター	5月21日ほか	74人	16人
13	鹿児島県	日置市東市来海洋センター	10月30日	16人	2人
14	鹿児島県	南大隅町佐多海洋センター	10月15日ほか	16人	11人
15	鹿児島県	天城町海洋センター	1月21日ほか	29人	6人
合計				762人	168人

(3) 植樹の支援

①植樹祭の共催

B & G 財団と共催で植樹祭を実施する海洋センター4 ヶ所に対し、事業経費の補助（上限：50 万円、総額：2,000,000 円）、適正樹種の選定調査や植樹祭に講師や職員等を派遣し、400 m²に1,300 本の植樹を行った。

植樹に際しては、広く地域の参加者を募るとともに、植樹方法だけでなく、植樹の意義、森と海の関わり、地域の自然などについても説明し、自然体験・環境教育となった。

◆植樹祭共催センター一覧

No.	道府県名	センター名	植樹日	参加者数	運営員数
1	北海道	遠別町	8月28日	129人	37人
2	長野県	上松町	10月19日	120人	17人

3	岐阜県	中津川市付知	11月15日ほか	199人	30人
4	鹿児島県	天城町	11月27日ほか	300人	56人
合 計				748人	140人

②植樹（自主開催）の支援

自主開催で植樹祭を実施する海洋センター10ヵ所に対し、事業経費の補助（上限：20万円、総額：1,830,524円）、適正樹種の選定等の指導・助言を行い、11,350㎡に3,099本の植樹を行った。

◆植樹自主開催センター一覧

No.	道府県名	センター名	植樹日	参加者数	運営員数
1	秋田県	男鹿市	11月7日	115人	10人
2	長野県	飯島町	12月18日	46人	10人
3	岐阜県	川辺町	11月8日	182人	13人
4	岐阜県	富加町	10月30日	82人	5人
5	島根県	雲南市加茂	10月10日	50人	6人
6	山口県	周防大島町	10月14日ほか	66人	9人
7	大分県	宇佐市安心院	1月20日	15人	5人
8	鹿児島県	阿久根市	11月12日	44人	10人
9	鹿児島県	南さつま市坊津	11月12日	71人	13人
10	鹿児島県	奄美市笠利	10月14日	55人	5人
合 計				726人	86人

③植樹（海洋センター独自予算による開催）の推進

育てた苗の植樹を推進し 植樹方法等の助言を行い、海洋センター等の独自予算で11ヵ所の海洋センターが2,316㎡に6,969本の植樹を行った。

◆植樹の独自予算実施センター一覧

No.	道府県名	センター名	植樹日	参加者数	運営員数
1	岩手県	奥州市前沢	9月11日	180人	30人
2	石川県	七尾市	12月10日	10人	3人
3	静岡県	掛川市大東	6月6日	197人	20人
4	静岡県	掛川市	6月18日	153人	19人
5	静岡県	掛川市大須賀	11月4日	118人	16人
6	滋賀県	長浜市浅井	3月20日	9人	3人
7	高知県	津野町東津野	11月4日	22人	4人
8	高知県	香美市香北	5月15日	19人	5人

9	鹿児島県	与論町	12月23日	72人	6人
10	沖縄県	名護市	7月12日	2人	1人
11	沖縄県	伊江村	2月15日	46人	12人
合 計				828人	119人

④5 ヲ年事業成果のとりまとめ

2012年度から5 ヲ年の事業実施地を対象とした追跡調査を実施し、事業実績・現状を取りまとめるとともに、事業に関する意見やアイデア・トラブル事例を収集して事業ノウハウとして資料化した。

その成果は、事業実施地にフィードバックするとともに、資料をHP上に公開した。

8. B&Gプランの推進に関わる調査研究等の活動

B&Gプランの更なる推進を図るため、事業の改善や質的向上を目的とした各種検証を行うとともに、新規事業創出に向けた調査研究等を行った。

(1) 事業成果の検証

2015年度の財団事業実績、海洋センター・海洋クラブの運営・活動状況分析などを記載した「B&G財団 活動実績報告書」を発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付した。

(2) 「青少年の健全育成推進計画」に関する調査研究 ※日本財団助成事業

海洋センターにおいて児童養護施設の子供たちの利用を広げるため、長野県・徳島県の児童養護施設を対象に、水辺の安全教室やカヌー、SUPなどの海洋性レクリエーション体験会をパイロット実施した。指導法や安全管理等について調査し、今後、海洋センター事業等において、積極的な受け入れを推進することとした。

(3) 多目的艇庫（予定）設置に関わる候補地の調査 ※日本財団助成事業

多目的艇庫のモデル建設に向け、建設予定地である鹿児島県天城町にて調査を行い、事業の詳細やコンセプトなど次年度に向けた方向性を検討した結果、2017年度は天城町をモデルとして実施することとした。

(4) 時代に即した海洋性レクリエーション普及展開事業の創出

「青少年の健全育成推進計画」の効果的な推進を図る新たな事業創出に向け、ひとり親家庭と障害者を対象とした事業を試験的に実施した。

①ひとり親家庭を対象とした海洋性レクリエーションの体験機会の提供

東京都内のひとり親家庭を対象に体験格差の解消を基本的な考えとした事業をパイロット実施した。この結果を活かし、次年度も「ひとり親家庭を対象とした海洋性レクリエーション体験会」の事業に反映させていく。

②障害者を対象とした海洋性レクリエーションの体験機会の提供

海洋センターで障害者の利用を広げるため、北海道滝川市B&Gセンターにおけるカヌー体験会や、B&G別府海洋クラブにおけるヨット体験会を協働実施したほか、東京都内の特別支援学校において水辺の安全教室をパイロット実施した。今後も各種事例やノウハウを収集、提供することにより、全国の海洋センターにおいても積極的な受入れを推進することとした。

9. 広報活動

(1) マスメディアによる広報

財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動を広く社会へ周知するため、マスメディアへのパブリシティ広報活動を行った。

◆マスメディア等への掲載・放映数

新聞	雑誌	テレビ	ウェブ
75紙294回	7誌9回	5局22回	8媒体12回

(2) インターネットを活用した情報発信

各種事業の効果的な周知のため、財団公式ホームページに、スマートフォン対応やサイト内での記事リンク自動生成機能の導入によって閲覧者の利便性向上を図り、大幅な閲覧数（PV）向上を果たした。

また、ブログやフェイスブックの特性を活かし、事業実施中に速報性のある情報発信に努めたほか、新たにツイッターの活用により、日々のニュースや出来事・記念日等に財団のもつ情報を関連させた形での情報発信の取り組みを始めた。

◆情報発信数

媒体名	アクセス数
公式サイト	2,683,259件
フェイスブック	516,411件
ツイッター	158,625件

(3) 広報作品コンクールの実施

海洋センターや海洋クラブの魅力を各地元から発信することを目的として実施。「わがまちの海洋センター・海洋クラブ自慢」をテーマに「PR映像」、「キャッチコピー入りポスター」の2部門で作品を募集した。

「B&G PR大賞審査委員会」により各賞を選出し、「第9回B&G全国サミット」で表彰を行った。

ア. 部門：「PR映像の部」

「キャッチコピー入りポスターの部」

イ. 審査委員会

・時期：2017年1月13日（金）

・場所：B&G財団会議室

ウ. 応募総数：映像の部 49点、ポスターの部 313点

エ. 結果

・映像の部：最優秀賞1点、審査員特別賞1点、優秀賞9点

・キャッチコピー入りポスターの部：最優秀賞1点、優秀賞10点

(4) 海洋センター・海洋クラブへの情報提供

①壁新聞「アンドリーニュース」の発行

財団事業や地域の特色ある事業を、海洋センター利用者・海洋クラブ員等に周知するため、適宜発行。データによる提供と合わせ、掲示依頼を行った。

・年間発行回数：22回

(5) オリジナルグッズの製作・販売

「海の日Tシャツ」などのオリジナルグッズを製作し、海洋センター・海洋クラブに販売した。

10. 情報ネットワークの強化

情報ネットワークシステムを活用し、全国の海洋センター・海洋クラブ、海洋センター所在自治体等との連携強化と効率的な情報共有を図った。

(1) 情報ネットワークシステムの安定運用

パソコンのセキュリティソフトや基幹ソフトの更新を行い、情報ネットワークシステムの安定運用に努めた。

(2) B&Gコンパスの活用

海洋センター・海洋クラブに対し、「B&Gコンパス」の活用と登録情報更新をすすめる、情報共有を図った。

1 1. 寄付金等

財団や海洋センターの活動をB&Gプランとして継続的に実施するため、広く社会へ寄付金を募集した。お預かりした寄付金は、海とふれあう機会の少ない「ひとり親家庭」の子どもたちを対象に、「海は友達！自然体験交流会」事業に使用した。

1 2. B&Gネットワークを活用した熊本支援事業

熊本地震で大きな被害を受けた海洋センター所在4自治体（熊本市・菊池市・宇城市・南阿蘇村）を対象に被災者の心身のリフレッシュと被災地を活気づけることを目的に支援事業を実施した。なお、これらの事業は「熊本地震募金」で集まった募金により実施した。

(1) 幼児を対象とした運動教室の実施

地震の影響により子供たちの運動機会が減少していた南阿蘇村・熊本市において、子供たちが体を動かしリフレッシュを図ること目的にフロアリズム運動教室を実施した。

①「がんばろう熊本！B&Gフロアリズム運動教室 in 南阿蘇」

- ア. 時期：2016年7月13日（水）・14日（木）、9月1日（木）・2日（金）
- イ. 場所：熊本県南阿蘇村
- ウ. 参加者：村内幼児165人

②「がんばろう熊本！B&Gフロアリズム運動教室 in 熊本」

- ア. 時期：2016年11月17日（木）・18日（金）
- イ. 場所：熊本県熊本市
- ウ. 参加者：市内幼児142人

(2) B&G指導員によるボランティア活動

南阿蘇村からの要望を受け、全国のB&G指導員が「横の連携」を活かし、がれき除去作業や救援物資移送などのボランティア活動を全4回行った。

- ア. 時期：2016年9月12日（月）
 - 10月16日（日）～18日（火）
 - 11月13日（日）～15日（火）
 - 12月11日（日）～13日（火）

イ. 場所：熊本県南阿蘇村

ウ. 参加者：延126人

エ. 内容：避難物資の移送、被災家屋の家財・がれき撤去等

(3) 被災地でのマリンスポーツイベント

被災自治体を活気づけるとともに、市民のリフレッシュを図ることを目的に、被災自治体の活動水面を利用し、市民を対象としたカヌー・SUP・バナナボートなどの海レク体験イベントを実施した。

①「がんばろう熊本！B&Gフェスタ in 菊池市」

- ア. 時 期：2016年9月25日（日）
- イ. 場 所：竜門ダム（熊本県菊池市）
- ウ. 参加者：225人

②「がんばろう熊本！B&Gフェスタ in 宇城市」

- ア. 時 期：2016年10月8日（土）
- イ. 場 所：若宮海水浴場（熊本県宇城市）
- ウ. 参加者：197人

【収益事業】

1. 土地賃貸事業

旧東京海洋センターの跡地（江東区深川）を「ホームセンターコーナン」に賃貸し、安定的な賃貸料収入を得た。この収入は当財団の公益目的事業及び管理運営業務等の経費支出に活用した。

別表 1

役員名簿

(2017年3月31日現在)

役職	氏名	現職
会長	梶田 功	一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会 会長（元） 大阪府 箕面市長（元）
専務理事	菅原 悟志	
常務理事	古山 透	
理事	佐野 慎輔	産経新聞社特別記者兼論説委員
〃	高良 文雄	沖縄県 本部町長
〃	中江 有里	女優 脚本家 作家
〃	中村 真衣	シドニーオリンピック競泳 銀メダリスト
〃	山中 健	兵庫県 芦屋市長
監事	大藪 卓也	大藪公認会計士事務所代表
〃	西本 克己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

別表2

評 議 員 名 簿

(2017年3月31日現在)

氏 名	現 職
議 長 小 高 幹 雄	BOAT RACE振興会 会長
岸 ユキ	女優
工 藤 祐 直	B & G全国サミット 副会長 B & G全国町村長会議・B & G全国指導者会 会長 青森県 南部町長
小 峯 力	中央大学 教授
谷 川 真 理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
西 嶋 泰 義	大分県 佐伯市長
波多野 茂 丸	全国モーターボート競走施行者協議会 会長 福岡県 芦屋町長
吉 田 和 夫	B & G全国サミット・B & G全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

別表 3

専 門 委 員 名 簿
(海洋センター施設整備委員)

(2017年3月31日現在)

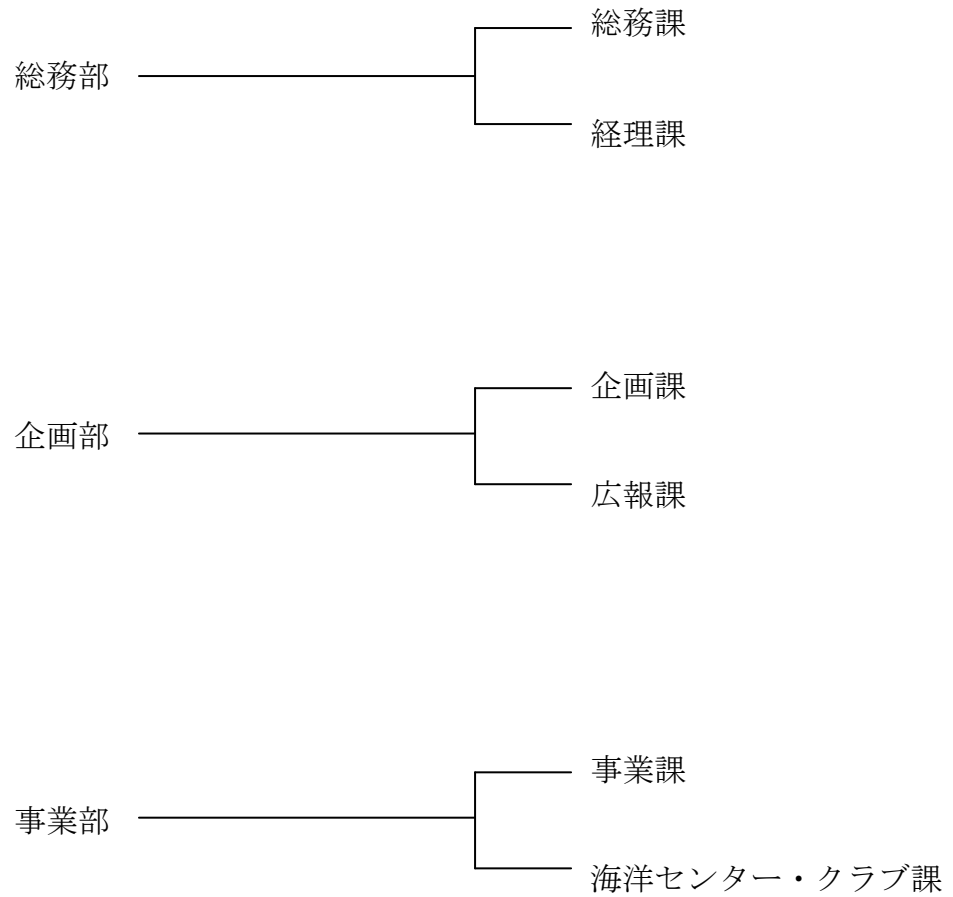
	氏 名	現 職
委員長	広 瀬 秀 貴	BOAT RACE振興会 常務理事
副委員長	田久保 雅 己	日本マリジャーナリスト会議 (MJC) 会長 株式会社舵社 常務取締役
委 員	小 林 元 一	株式会社松田平田設計 大阪事務所 副所長
〃	田 村 祐 司	東京海洋大学大学院 准教授
〃	野 本 昇	室蘭民報社 東京支社長
〃	藤 本 逸 朗	日本海事新聞社 取締役

(五十音順)

別表 4

事務局 機構 図

2017年3月31日現在



2016 年度事業報告 附属明細書

2016 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2017 年 5 月

公益財団法人
ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

前記のとおり相違ありません。

2017年5月25日

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会 長 梶 田 功

2016年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 大 藪 卓 也

監 事 西 本 克 己